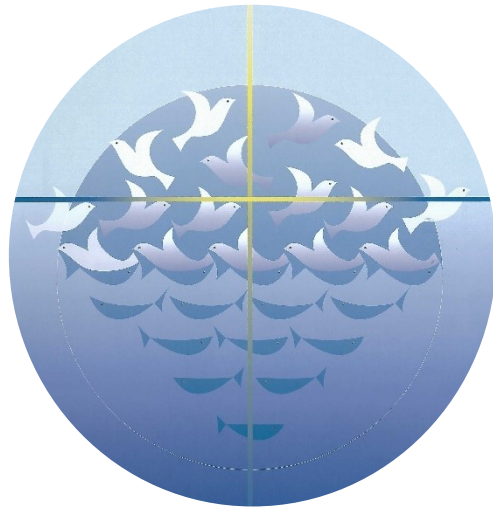


日本バプテスト神学校

2020年度 講義要項



245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢 1-24-9

TEL 045-866-3150 FAX 045-443-5933

E-mail jbts@jbu.or.jp

日本バプテスト神学校の教育理念

1. 「良い知らせを伝える」ために召された伝道者として、聖書を正しく学び、福音の真理を確かに身につける。
2. 伝道者としての信仰の成熟を、神に祈り、求め、品性の成長に努める。
神と人に仕える者としてみことばに聴き、他者を愛し、敬い、謙虚に仕えることができる信仰者を養成する。他者の存在を受け入れ、他者に仕えることを喜ぶ人間性の習得に努める。
3. よき牧会者となるために、よき羊飼いに倣い、心を開き、他者と多くのものを分かち合う心を養うことに努める。

2020年度 日本バプテスト同盟 年間主題

世に仕える教会（ルカによる福音書 22章 26節より）

2020年度 教役者名簿（あいうえお順・敬称略）

教役者名		担当科目名
大矢 誉生	兼任講師	新約聖書学 I
小野 慈美	教授	牧会学 説教演習 論文
久保親哉	兼任講師	牧会カウンセリング
高橋 彰	教授	キリスト教史 神学概論 教義学 教義学特講 関西教室（前期（キリスト教史）） デボーション・礼拝
比企 敦子	兼任講師	キリスト教教育学
堀江有里	兼任講師	社会学（基礎課程）
益 巖	校長代行・教授	フィールドワーク（講義） 新約聖書学 II 新約聖書学 III 論文
村椿 真理	兼任講師	バプテスト史
森島 恵	兼任講師	新約ギリシャ語
渡邊さゆり	教授	フィールドワーク（実習 研修） ヘブライ語聖書学 I ヘブライ語聖書学 II ヘブライ語聖書学 III 実践神学 II 英語（基礎課程） 礼拝

カリキュラム表・20年度 開講科目一覧（担当者名のある科目が、今年度開講している科目です）

I. 基礎課程

信徒伝道者養成コース

科目名	単 位	必修	選択	担当者名	備考
ヘブライ語聖書学 I	4	○		渡邊	
新約聖書学 I	4	○		大矢（誉）	
キリスト教史	4	○		森島（恵）	
神学概論	4	○		高橋	

キリスト教学	4	○			
実践神学 I	4	○			
神学校礼拝	高橋・渡邊				
関西教室	4	○		高橋・未定	

科目名	単位	必修	選択	担当者名	備考
英語	2	○		渡邊	
社会学	2	○		堀江	
キリスト教学	4	○			
フィールドワーク	4	○		益・渡邊	
宗教学	2	○			
神学校礼拝	高橋・渡邊				

II. 神学専門課程

教師養成コース

第一学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	備考・先修科目
ヘブライ語聖書学 I	4	○		渡邊	
新約聖書学 I	4	○		大矢 (誉)	
キリスト教史	4	○		高橋	
神学概論	4	○		高橋	
実践神学 I	4	○			
選択科目	8		○		20年度 キリスト教教育学、新約ギリシャ語、教義学特講
フィールドワーク I	4	○		益・渡邊	
礼拝	高橋・渡邊				

第二学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	備考・先修科目
ヘブライ語聖書学 II	4	○		渡邊	ヘブライ語聖書学 I
新約聖書学 II	4	○		益	新約聖書学 I
教義学	4	○		高橋	神学概論
バプテスト史	4	○		村椿	キリスト教史
説教学	4	○			
キリスト教と現代	4	○			
選択科目	4		○		20年度キリスト教教育学、新約ギリシャ語、教義学特講
フィールドワーク II	4	○		益・渡邊	
礼拝	高橋・渡邊				

第三学年

科目名	単位	必修	選択	担当教員名	備考・先修科目
ヘブライ語聖書学 III	4	○		渡邊	ヘブライ語聖書学 I・II

新約聖書学 III	4	○		益	新約聖書学 I
実践神学 II	4	○		渡邊	実践神学 I
牧会学	4	○		小野	
説教演習	4	○		小野	説教学
牧会カウンセリング (半期)	2	○		久保	
選択科目	2		○		20年度 キリスト教教育学、新約ギリシャ語、教義学特講
論文	4	○		小野・益	
フィールドワーク III	4	○		益・渡邊	
礼拝	高橋・渡邊				

選択科目

科目名	単位	担当教員名	備考・先修科目
教会史特講	4		キリスト教史
教義学特講	4	高橋	教義学
原典講読 (旧約)	4		古典ヘブライ語
原典講読 (新約)	4		新約ギリシア語
日本キリスト教史 (前期)	2		
教会音楽	2		
特別講座	4		
新約ギリシャ語	4	森島 (恵)	
古典ヘブライ語	4		
原書講読 I	4		
原書講読 II	4		
キリスト教教育学	2	比企	
基礎文献講読	4		
礼拝学	2		

バプテストコース 必修科目

(ただし、教師養成コースの必修科目で未修のものがあれば、履修を求める。学生のこれまでの神学教育機関での履修の有無により相談して決定する科目がある。)

科目名	単位	担当教員	備考・先修科目
バプテスト史	4	村椿	キリスト教史
実践神学 I	4		
実践神学 II	4	渡邊	実践神学 I
牧会学	4	小野	
説教演習	4	小野	説教学
論文	4	益・小野	
フィールドワーク III	4	益・渡邊	

日本バプテスト神学校 2020年度 時間割

		火		水		木		金		
9:00~9:30		聖書と祈り								
		渡邊・高橋		益・事務		高橋		渡邊		
1限目 9:40~ 11:00	春	教義学 (高橋)	ヘブライ語 聖書学 III (渡邊)		フィールドワーク (益・渡邊) 教師コース全員		教義学特講 (高橋)		ヘブライ語聖書学 II (渡邊)	
	秋									
2限目 11:10~ 12:30	春	神学校礼拝 (11:10-12:00)		新約聖書学 II (益)		神学 概論 (高橋)		実践神学 II (渡邊)		
	秋									
ランチタイム・学内清掃										
		高橋・渡邊		益・事務		小野		渡邊		
3限目 13:30~ 14:50	春	キリスト教教育学 (半期・比企)		新約 聖書学 I (大矢 (誉))	新約ギリ シャ語 (森島恵)	説教演習 (小野)				
	秋	英語(基礎課程) (渡邊)								
4限目 15:00~ 16:20	春	ヘブライ語 聖書学 I (渡邊)		新約 聖書学 III (益)		牧会学 (小野)				
	秋									
5限目 16:30~ 17:50	春	牧会カ ウンセ リング (半期・ 久保)	バプテ スト史 (村椿)	キリスト 教史 (高橋)						
	秋						論文 (益)		論文 (浅輪・小野)	
関西教室(高橋／)、社会学(基礎 堀江・集中)、 (特別講座 帆苺・集中(未定))、 論文については指導教員と相談の上、進めてください(上記時間通りではありません)										

キリスト教教育学(比企・半期) 4/14, 28, 5/12, 6/2, 9, 16, 23, 7/7, 21, 9/15, 29, 10/6, 13, 20

牧会カウンセリング(久保・半期) 4/21, 28, 5/19, 26, 6/16, 23, 7/7, 16, 9/15, 10/20, 27, 11/17, 12/8, 1/5

英語(基礎課程 渡邊・半期) 4/7, 21, 5/19, 26, 6/2, 30, 7/14, 10/27, 11/17, 24, 12/1, 8, 15(補講対応一回)

社会学(基礎課程 堀江・半期 集中) 10月3日、17日、11月7日(午前、午後)

関西教室前期分(キリスト教史) 4月~8月基本的には最終土曜日、後期未定

デボーション	担当者名	時間	教師養成コース
	高橋・益・渡邊	火、水、木、金 午前9時—9時30分	
<p>講義日程中に行われる朝のデボーションは、教師養成コース全学生、教員の霊的養いの時間です。 JB誌「聖言の泉」による聖書日課を用いて、聖書を読み、賛美と祈りをもって、神学校での生活を始めます。担当者は、準備をし、デボーション日誌への記入をしてください。</p> <p>出席をとります。各自、自分の聖書、讃美歌集を準備してください。</p>			

科目名	担当者名	単位数	時間	教師養成コース
フィールドワーク	益 巖・渡邊さゆり	4	水・1 (講義)	

【講義概要】

＜通年実習＞（全受講者）

受講する神学専門課程の学生は、日本バプテスト同盟に加盟する教会・伝道所の協力を得て、一年を通じて定められた一つの教会において、指導にあたる事が可能な教師の導きのもと教会実習をします。週ごとに通年教会実習のレポートを提出し、講義内で、他の学生の実習レポートをよく聴き、互いに宣教的な課題を討議します。

＜研修旅行＞（全受講者）

日本バプテスト同盟の東北、関西、内海部会の教会・伝道所を研修のために順に訪問し、各地区の教会・伝道所の働きを学び、信徒との交わりを持ち、教師の働きから学びます（本年度は内海部会を予定）。またそれぞれの地域にある宗教施設や、協力団体の歴史、働きを知ります。

＜教会集中実習＞（卒業予定者）

日本バプテスト同盟に加盟する、所属教会、通年実習教会以外、特に関東部会以外の教会において卒業予定者が、現在、教会教師として、牧会を行っている教師のもとで、三回の主日を含む15日間以上を継続して実習します。

＜外部実習＞（全受講者）

本校が連携している日本キリスト教婦人矯風会（全学生）、NCC 教育部などによる研修（卒業予定者）に出席し、研修レポートをします。地域、また内外のキリスト教グループとの関係を知り、牧会について信頼性の中で話し合いを進めていきます。

＜聖書と祈り＞

講義期間中に行われるデボーションへの出席を重視します。

＜神学校礼拝＞

学生は、神学校礼拝に参列し、奉仕を担当します。学期ごとに、礼拝奉仕についての振り返りを行い、牧会的に信徒の働きを導く力を養います。

＜財産管理についての実践＞

受講者は、今後教会堂、および教会財産の管理者としても働きます。具体的には、神学校校舎の維持管理に具体的に参与して学びます。清掃、修理、修繕なども検討しつつ、教会事務についても実践的に学びます。

【講義計画】

① 通年教会実習の実習記録を作成、毎講義中に提出をします。実習で学んだこと、考えさせられていることをよくまとめ、発題し、コメントを聞き、次週への取り組みに反映させて、フィールドワークの基本的な作業を身に付けていきます。

② 協力団体、キリスト教学校での奉仕や、研修に参加します。

③ 同盟諸規定集を通じて、宗教学人格をもつ宗教団体としての社会的責任、また信仰共同体としての教会形成など具体的な働きについて学びます。これからの日本バプテスト同盟に加盟する教会、協力団体の連帯についてもよく話し合う時間をもちたいと思います。

【評価方法】

通年教会実習出席・講義出席＝30％ 週ごとの通年教会実習レポート＝30％

デボーション出席＝20％ 学期ごと、研修旅行レポート＝20％ ただし、教会実習先の教師からのコメントを重視し、適宜実習内容や方法を変更する場合があります。実習レポートの不足は、上記の配分を超えて減点の対象とすることがある。実習への遅刻、早退、欠席の過多（規定期間の四分の一以上）は、単位を認定することはできません。

【テキスト】

学生は必ず自分用の『JB』誌を講読すること（聖書と祈りの時間に使用します）。

宗教法人 日本バプテスト同盟『信徒の手引き』改訂八版 日本バプテスト同盟 2006年

宗教法人 日本バプテスト同盟 同盟規程集（2019年度発刊分）

【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

【備考】

共に学ぶ仲間が他の教会で学んだことのレポートをよく聴き、尊重し、やり取りをすること自体も、実践的な訓練ととらえています。互いに相手の気持ちを考え、共感的態度で関与しながら、協働性が育めるように、積極的に誠実な態度で臨んでほしいと願っています。

デボーションへの遅刻、実習先への遅刻、早退、欠席のないように十分に備えて取り組んでほしいと願っています。

科目名	担当者名	単位数	時間	1・S・聴
ヘブライ語聖書学 I (旧約 I)	渡邊さゆり	4	火・4	
【講義概要】				
<p>ヘブライ語聖書についての総合的な解説を行います。一年の講義を通して、受講者と教員が、ヘブライ語聖書をよく読み、考え、基本的な聖書学の知識を共に身に付けていきたいと思えます。聖書学の基礎となる①書かれたことからの内容をしっかりととらえ、②自分の考えをまとめ、③相手にわかりやすく説明することに取り組みます。一年間の学びを通して、来年度は、原典を読んでいきたいという思いが起こされるような新しい学びとなればと思えます。</p> <p>受講者は、まずはヘブライ語聖書時代史に興味を持ち、歴史的に重要な出来事をしっかりと頭に入れ、地理や文化について慣れ親しんでいくことに重点を置き、聖書を読み進めてくださればと思えます。</p>				
【講義計画】				
前期				
1. まなびの準備・ヘブライ語聖書の呼び名・内容・構成				
2. モーセ五書 1 神名の問題と四資料仮説以降				
3. モーセ五書 2 創世物語と族長物語				
4. モーセ五書 3 出エジプト記と十戒 古代オリエント社会における「契約」				
5. モーセ五書 4 二つの「律法」レビ記、民数記、申命記				
6. ヨシュア記と士師記 土地取得・「聖戦」・十二部族連合				
後期				
1. 王制へのあこがれ サムエル記上下				
2. ダビデ王朝の物語 サムエル記下～列王記へ				
3. 「預言者」 1 エリヤ、エリシャ物語から				
4. 「預言者」 2 イスラエル記述預言者たちの働き 「預言書」から知るバビロン捕囚				
5. バビロン捕囚後期 第二イザヤ書を読み解く				
6. 古代ユダヤ文学を読む 詩歌に親しむ、エステル記を読もう				
上記の予定は、受講者の状況によって変更することがあります。この一年間でしっかりとヘブライ語聖書に親しみます。「テキスト」を読む力を養い、釈義、神学的思考を深めるための基礎を学びます。				
【評価方法】				
学期ごとのレポート・テスト80%、出席、講義中の発表20%				
【テキスト】				
『聖書 新共同訳一旧約聖書続編付き』 日本聖書協会 1987, 1988年				
越川弘英 『旧約聖書の学び』 キリスト新聞社 2014年				
日本聖書協会 編 『はじめて読む人のための 聖書ガイド』 2011年				
【参考書】				
講義中に適宜紹介します。				
【備考】 すでに受講した方の再聴講も可能です。				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・S・聴
新約聖書学Ⅰ	大矢誉生	4	水・3	
【講義概要】				
新約聖書を丁寧に読む事によって、各書の内容と、成立背景、神学的な特徴を学びます。				
【講義計画】				
前期内容				
1) 福音書（共観福音書、ヨハネによる福音書）				
2) 使徒言行録				
後期内容				
3) パウロ書簡（コリントの信徒への手紙一、コリントの信徒への手紙二、ガラテヤの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙、テサロニケの信徒への手紙、フィレモンの信徒への手紙、ローマの信徒への手紙）				
4) パウロの名による書簡（コロサイの信徒への手紙、エフェソの信徒への手紙、テサロニケの信徒への手紙二、テモテへの手紙一、テモテへの手紙二、テトスへの手紙）				
5) ヘブライ人への手紙				
6) 公同書簡（ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、ペトロの手紙二、ヨハネの手紙一、ヨハネの手紙二、ヨハネの手紙三、ユダの手紙）				
7) ヨハネの黙示録				
【評価方法】				
毎週のレポート提出と発表、前期レポート、後期レポート				
【テキスト】				
聖書「新共同訳聖書」				
「新版 総説 新約聖書」日本キリスト教団出版局				
【参考書】				
適宜、授業でお知らせします。				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・S・聴																																
神学概論	高橋 彰	4	木・2																																	
<p>【講義概要】</p> <p>「神学する」とは何か、という問いを持ち、基礎的な神学的主題を概観し、これまでなされてきた議論へ対論を立て、問いを深め、これから学ぶ神学的用語を用いて議論する力と、文章作成力を養うことを目標とします。</p> <p>神学の領域、議論の方法、基本的知識を習得するため、指定のテキストに取り組み、キリスト教神学の諸主題についての幅広い世界の地図を頭で整理して理解するための基礎作業をします。</p> <p>牧会者や信徒伝道者として教会形成や信徒の教育のリーダーシップを担ってゆくための神学の基礎を築くための大切な学びです。</p> <p>前期は神学の区分と内容を紹介し、近代以降の神学史的を概観します。その後「神、人間、世界」という領域を組織神学的に考察し、現代世界の諸課題について、どのように神学してゆくかを考えてゆきます。</p> <p>後期はバプテスト教会という場からの神学、教会形成についてテキストを用いて学びます。発表と討議を通してそれぞれが自らの信仰と教会生活に対する神学的考察を行うと共に、用語を使用して議論する経験を積み重ねます。</p>																																				
<p>【講義計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1. オリエンテーション「神学とは何か」</td> <td>15. バプテスト教会で神学する</td> </tr> <tr> <td>2. 神学と教会</td> <td>16. 『バプテストの教会形成』</td> </tr> <tr> <td>3. 神学の諸分野</td> <td> I バプテストの本質と起源をたずねて</td> </tr> <tr> <td>4. 近代以降の神学の展開</td> <td>17. II 新約聖書の教会観</td> </tr> <tr> <td>5. 20世紀のプロテスタント神学</td> <td>18. III 普遍教会と個別教会</td> </tr> <tr> <td>6. 信仰とは何か</td> <td>19. IV 個別教会</td> </tr> <tr> <td>7. 神について</td> <td>20. V 教会員—その資格と責任</td> </tr> <tr> <td>8. 創造について</td> <td>21. VI バプテスト教会の牧師</td> </tr> <tr> <td>9. 人間とは何か</td> <td>22. VII バプテスマと聖餐</td> </tr> <tr> <td>10. 啓示—イエス・キリストについて</td> <td>23. VIII エキュメニカルな諸関係について</td> </tr> <tr> <td>11. 救いについて</td> <td>24. 世界と環境の神学的課題</td> </tr> <tr> <td>12. 三位一体をめぐる議論</td> <td>25. キリスト教とほかの宗教</td> </tr> <tr> <td>13. 教会とは何か</td> <td>26. 平和の神学的課題</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>27. 終末と希望</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28. まとめ</td> </tr> </table>					前期	後期	1. オリエンテーション「神学とは何か」	15. バプテスト教会で神学する	2. 神学と教会	16. 『バプテストの教会形成』	3. 神学の諸分野	I バプテストの本質と起源をたずねて	4. 近代以降の神学の展開	17. II 新約聖書の教会観	5. 20世紀のプロテスタント神学	18. III 普遍教会と個別教会	6. 信仰とは何か	19. IV 個別教会	7. 神について	20. V 教会員—その資格と責任	8. 創造について	21. VI バプテスト教会の牧師	9. 人間とは何か	22. VII バプテスマと聖餐	10. 啓示—イエス・キリストについて	23. VIII エキュメニカルな諸関係について	11. 救いについて	24. 世界と環境の神学的課題	12. 三位一体をめぐる議論	25. キリスト教とほかの宗教	13. 教会とは何か	26. 平和の神学的課題	14. まとめ	27. 終末と希望		28. まとめ
前期	後期																																			
1. オリエンテーション「神学とは何か」	15. バプテスト教会で神学する																																			
2. 神学と教会	16. 『バプテストの教会形成』																																			
3. 神学の諸分野	I バプテストの本質と起源をたずねて																																			
4. 近代以降の神学の展開	17. II 新約聖書の教会観																																			
5. 20世紀のプロテスタント神学	18. III 普遍教会と個別教会																																			
6. 信仰とは何か	19. IV 個別教会																																			
7. 神について	20. V 教会員—その資格と責任																																			
8. 創造について	21. VI バプテスト教会の牧師																																			
9. 人間とは何か	22. VII バプテスマと聖餐																																			
10. 啓示—イエス・キリストについて	23. VIII エキュメニカルな諸関係について																																			
11. 救いについて	24. 世界と環境の神学的課題																																			
12. 三位一体をめぐる議論	25. キリスト教とほかの宗教																																			
13. 教会とは何か	26. 平和の神学的課題																																			
14. まとめ	27. 終末と希望																																			
	28. まとめ																																			
<p>【評価方法】</p> <p>前期は毎回の講義で学んだことを整理し、レスポンスシートを提出していただきます。後期は発表の担当の準備に誠実に取り組み、担当以外でもテキストを必ず読んで講義に参加し、積極的に発言をしてください。前期には試験を行います。夏休みと後期にレポート課題を出します。</p>																																				
<p>【テキスト】 日本バプテスト同盟「信徒の手引き」</p> <p>N・H・メアリング、W・S・ハドソン 大竹庸悦、藤原三千男訳『バプテスト教会の形成』 新教出版社 2011年</p> <p>その他、必要に応じて講義で指示します。(※上記テキストは、いずれも当校で販売扱いをしています)</p>																																				
<p>【参考書】 アリスター・E・マクグラス 本多峰子訳『総説キリスト教』キリスト新聞社 2008年</p> <p>A.リチャードソン/J.ボウデン編 古屋安雄監修 佐柳文男訳『キリスト教神学辞典』教文館 2005年</p> <p>その他、必要に応じて講義で指示します。</p>																																				
<p>【備考】 神学書を読む力を養うために、適宜ブックレポートを課します。</p>																																				

科目名	担当者名	単位数	時間	1・S・聴		
キリスト教史	高橋 彰	4	火・5			
<p>【講義概要】</p> <p>キリスト教は今日のわたしたちの未来に希望を与えるでしょうか。ナザレのイエスと呼ばれた一人の人の存在によって示されたことを、過去の歴史と知恵から解釈して救いの真理だと信じた人びとは、教会の形成に連なりキリストの福音を伝え続けてきました。2000年に及ぶ歴史においてキリスト教は何度も危機に陥りましたが、教会の内外からの影響や問い直しを受け、そして積極的に新しい展開へ踏み出すことを通して、息を吹き返すように世界に広まり、今日に至るまで生き延びてきています。キリスト教は西欧の伝統だけでなく、東、アジア、アフリカ、アメリカ、さまざまな地域や少数派の歴史をも通して実に多様な展開をしてきていることも、20世紀後半から目を向けて学ばれるようになってきています。また他宗教との邂逅も歴史を読み解くうえで欠かせない視点となっています。</p> <p>この講義ではキリスト教を「危機と復活の歴史」という視点から読み解く英国のキリスト教史学者ディアメイド・マッカロックの著作と視聴覚教材をテキストに用いて、1000年の前史と2000年に及ぶキリスト教の歴史と展開を学びます。現代の教会につながって生きるわたしたちが、真摯な批判精神と新生の希望をもち、教会の歴史を責任を持って担う者として、基本的知識や知恵、さらに過去の出来事や資料を読み解くことから問いを持つ思考力を身に着けることを目標とします。</p>						
<p>【講義計画】</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. キリスト教の起源 3. ギリシア、ローマ、イスラエルの千年 4. 十字架につけられたメシアを伝える人びと 5. 定義された境界（正典、信条、宣教） 6. 「カトリック」～ローマの台頭 7. 教会とローマ帝国 8. 帝国の教会 9. カルケドンに挑む 10. イスラームの台頭 11. ラテンキリスト教の形成 12. 教皇と皇帝、中世神学、十字軍 13. 正教会の歴史 14. ビザンティンからロシアへ 第三のローマ </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 宗教改革—神の前に立つ個人 16. 西方教会の解体 17. 「改革」の展開 18. ローマの更新、カトリック対抗「改革」 19. アメリカ大陸、アジア、アフリカの対抗改革 20. プロテスタント 福音主義の台頭 21. プロテスタントの覚醒 22. 被告席に立つ神 23. 啓蒙主義と教会 24. プロテスタントの世界宣教 25. 平和ではなく剣を 第一次、第二次世界大戦 26. カトリック、プロテスタント、解放の神学 27. 日本のキリスト教 28. まとめ </td> </tr> </table>					<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. キリスト教の起源 3. ギリシア、ローマ、イスラエルの千年 4. 十字架につけられたメシアを伝える人びと 5. 定義された境界（正典、信条、宣教） 6. 「カトリック」～ローマの台頭 7. 教会とローマ帝国 8. 帝国の教会 9. カルケドンに挑む 10. イスラームの台頭 11. ラテンキリスト教の形成 12. 教皇と皇帝、中世神学、十字軍 13. 正教会の歴史 14. ビザンティンからロシアへ 第三のローマ 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 宗教改革—神の前に立つ個人 16. 西方教会の解体 17. 「改革」の展開 18. ローマの更新、カトリック対抗「改革」 19. アメリカ大陸、アジア、アフリカの対抗改革 20. プロテスタント 福音主義の台頭 21. プロテスタントの覚醒 22. 被告席に立つ神 23. 啓蒙主義と教会 24. プロテスタントの世界宣教 25. 平和ではなく剣を 第一次、第二次世界大戦 26. カトリック、プロテスタント、解放の神学 27. 日本のキリスト教 28. まとめ
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. キリスト教の起源 3. ギリシア、ローマ、イスラエルの千年 4. 十字架につけられたメシアを伝える人びと 5. 定義された境界（正典、信条、宣教） 6. 「カトリック」～ローマの台頭 7. 教会とローマ帝国 8. 帝国の教会 9. カルケドンに挑む 10. イスラームの台頭 11. ラテンキリスト教の形成 12. 教皇と皇帝、中世神学、十字軍 13. 正教会の歴史 14. ビザンティンからロシアへ 第三のローマ 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 宗教改革—神の前に立つ個人 16. 西方教会の解体 17. 「改革」の展開 18. ローマの更新、カトリック対抗「改革」 19. アメリカ大陸、アジア、アフリカの対抗改革 20. プロテスタント 福音主義の台頭 21. プロテスタントの覚醒 22. 被告席に立つ神 23. 啓蒙主義と教会 24. プロテスタントの世界宣教 25. 平和ではなく剣を 第一次、第二次世界大戦 26. カトリック、プロテスタント、解放の神学 27. 日本のキリスト教 28. まとめ 					
<p>【評価方法】講義では毎回レジュメプリントを配布します。講義内容は毎週要約を作り、コメントをつけて次週に提出していただきます。前後期試験、夏期・冬季ブックレポート課題を出します。</p>						
<p>【テキスト】</p> <p>DIAMAID MACCULLOCH “CHRISTIANITY THE FIRST THREE THOUSAND YEARS” PENGUIN BOOKS, 2009（ペーパーバック本でも、Kindle データでも入手できます。）</p> <p>Diarmaid MacCulloch, “A History of Christianity” [DVD] BBC, 2010</p>						
<p>【参考書】</p> <p>フスト・ゴンサレス著、石田学、岩橋常久訳『キリスト教史』上下巻、2003年、新教出版社 土井健司監修『1冊でわかるキリスト教史』日本キリスト教団出版局、2018年 菊地伸二著『ウィリアムス神学館叢書Ⅲ いまさら聞けない!?キリスト教 キリスト教史編』教文館、2019年 その他、参考図書は授業で毎回指示します。</p>						
<p>【備考】配布する資料を保管できるファイルを用意してください。毎週の授業要約は互いに配布し合い、相互の学びに役立ててください。</p>						

科目名	担当者名	単位数	時間	
ヘブライ語聖書学 II (旧約 I I 積義)	渡邊さゆり	4	金・1	2・3・B・聴（聴講生は、Iの既習者）
【講義概要】				
<p>受講者が、学んできたヘブライ語聖書の基本的な知識を確認し、写本や、異なる翻訳について解説します。原典の精読、脚注の指示を読み、翻訳の比較検討、文脈化、注解をたどり、自ら、テキストをひも解くことができるようになるのが本講義の目的です。</p> <p>スチュワート D. 著 山吉智久訳『旧約聖書の積義——本文の読み方から説教まで』教文館 2017年を読み進めて、積義を実際に行う準備をいたします。</p> <p>「原典」の問題を紹介しながら、礼拝「説教」、聖書研究のための作業を共同で行います。受講生のすべてがヘブライ語に通じていない場合は、ヘブライ語とその文法についての簡単な解説を加えながら、辞書の使い方を修得していただきます。また多くの注解書にあたり、発見や問題点をあげ、自分で原典、注解書にあたり、読み解く努力を動機づけたいと考えています。地図、周辺写本についても言及し、資料収集と整理、そして読解の力を身につけていきます。教員と受講者が力を合わせ、ヘブライ語聖書を深く読み解いていきましょう。</p> <p>必要に応じて、受講者が本年度のヘブライ語聖書学 I を並行して再聴講することをおすすめします。真剣に、そして謙虚に聖書を読むための努力を重ねることができる動機付けとしてこの講義に取り組みたいと思っていますので、共に聖書を読む喜びと重大さの前に謙虚に聖書を読むことを続けていきましょう。</p>				
【講義計画】				
<p>本年度は、スチュワート D. 著 山吉智久訳『旧約聖書の積義——本文の読み方から説教まで』教文館 2017年を読み進めて、積義を実際に行う準備をいたします。</p> <p>(前期) 創世記 1-11 章、出エジプト記、サムエル記ほか、からテキストを取り上げます。</p> <p>(後期) アモス書、イザヤ書、詩編からテキストを取り上げます。</p> <p>各自、それぞれに割り当てられた箇所の積義を行い講義内発表をします。講義の最終では、それぞれが取り組んだ箇所から、メッセージを執筆するというこへつなげてゆきたいと思います。</p> <p>これから教会、協力団体において宣教に従事する方がたが、「ことば」とその影響を文脈の中でとらえ直すことができるよう、受講者の状況を見ながらすすめてゆきたいと考えています。</p>				
【評価方法】				
積義ノート他提出物 50、前期レポート 20、後期レポート 30				
【テキスト】				
<p>Biblia Hebraica Stuttgartensia 1967/1977</p> <p>聖書（多数の版を持参ください）</p> <p>スチュワート D. 著 山吉智久訳『旧約聖書の積義——本文の読み方から説教まで』教文館 2017年</p>				
【参考書】				
適宜、講義中に指示する。事典類など、牧会宣教職を志願する学生は入手できるようにすること。				
【備考】				
学外で行われる聖書学関連の学習会への参加を奨励します。				

科目名	担当者名	単位数	時間	2・3
新約聖書学 II	益 巖	4	水・2	
【講義概要】				
<p>本講座では、マルコ福音書の釈義を試みる。その中で、他の共観福音書の本文との違いがあることに気付くであろう。その違いは、イエスの指針を各福音書がどのようにとらえているかの違いであることがわかる。それは、各福音書が成立した教会のイエスの指針への理解の違いであることもわかってくる。</p> <p>本講座では、マルコ福音書の釈義を通して、今日の教会の宣教の指針も考えていきたい。</p>				
【講義計画】				
<p>受講生は、まず、自分で授業で取り上げる箇所を訳してみる。その上で自分で新共同訳と口語訳との違いを確認し、さらに内容的に疑問になったことを書き出してみる。その上で次の授業までに、疑問の生じたことを調べていくことを繰り返していく。</p>				
【評価方法】				
<p>授業出席、及び授業への取り組み、課題レポートの内容によって評価します。</p>				
【テキスト】				
<p>NESTLE-ALAND NOVUM TESTAMENT GRACE 28th Revised Edition New Revised Standard Ver. 新共同訳 新約聖書 口語訳 新約聖書</p>				
【参考書】				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	2・B																														
教義学	高橋 彰	4	火・1																															
【講義概要】																																		
<p>キリスト教の主要な教理について体系的に学び、それぞれの基本項目について理解を深めるとともに、福音宣教の内容を整理し、自分でも語れるようになることを目的とします。</p> <p>教義学は教会形成のために奉仕するとともに、教会の伝統と現在を批判検証するという面においても建設的に教会に奉仕する学として意義を持ちます。聖書主義を掲げ、特定の信条を持たず、自由で人格的な神への応答を重視するという信仰の本質を重視してきたバプテストにとって、教義学的考察は欠かせない作業です。権威主義的にならぬこと、信仰と教会に関する様々な神学的課題を自ら検証していくための学としての意義を持つことを重視しつつ、講義を進めます。</p>																																		
【講義計画】																																		
<p>神学思想史を確認したのち、D.L.ミグリオリの著作を通して教義学の諸課題を考察します。各章ごとに担当者を決めて発表をします。担当以外の部分も必ず事前にテキストを熟読し、議論に参加できるようにして講義に臨んでください。主テキストだけにあたって要約をするのではなく、他の文献にも丁寧にあたり担当項目についてよく理解し、発題を準備するようにしてください。</p>																																		
<table style="width: 100%; border: none;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">前期</th> <th style="text-align: left;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. はじめに 教義学とは</td> <td>15. 夏休み課題発表</td> </tr> <tr> <td>2. 神学思想史 1</td> <td>16. 第 11 章 新しき共同体 1</td> </tr> <tr> <td>3. 神学思想史 2</td> <td>17. 第 11 章 新しき共同体 2</td> </tr> <tr> <td>4. 第 1 章 神学の営み</td> <td>18. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 1</td> </tr> <tr> <td>5. 第 2 章 啓示の意味</td> <td>19. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 2</td> </tr> <tr> <td>6. 第 3 章 聖書の権威</td> <td>20. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 1</td> </tr> <tr> <td>7. 第 4 章 三位一体の神</td> <td>21. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 2</td> </tr> <tr> <td>8. 第 5 章 神の良き創造</td> <td>22. 第 14 章 キリスト者の希望 1</td> </tr> <tr> <td>9. 第 6 章 神の摂理と悪の不可解さ</td> <td>23. 第 14 章 キリスト者の希望 2</td> </tr> <tr> <td>10. 第 7 章 被造物、罪びと、そしてキリストにおける新しい存在としての人間</td> <td>24. 補遺 A 自然神学</td> </tr> <tr> <td>11. 第 8 章 イエス・キリストの人格と業</td> <td>25. 補遺 B 復活</td> </tr> <tr> <td>12. 第 9 章 文脈においてイエス・キリストを告白すること</td> <td>26. 補遺 C 政治神学</td> </tr> <tr> <td>13. 第 10 章 聖霊とキリスト者の生</td> <td>27. 補遺 D 無神論</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>28. まとめ</td> </tr> </tbody> </table>					前期	後期	1. はじめに 教義学とは	15. 夏休み課題発表	2. 神学思想史 1	16. 第 11 章 新しき共同体 1	3. 神学思想史 2	17. 第 11 章 新しき共同体 2	4. 第 1 章 神学の営み	18. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 1	5. 第 2 章 啓示の意味	19. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 2	6. 第 3 章 聖書の権威	20. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 1	7. 第 4 章 三位一体の神	21. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 2	8. 第 5 章 神の良き創造	22. 第 14 章 キリスト者の希望 1	9. 第 6 章 神の摂理と悪の不可解さ	23. 第 14 章 キリスト者の希望 2	10. 第 7 章 被造物、罪びと、そしてキリストにおける新しい存在としての人間	24. 補遺 A 自然神学	11. 第 8 章 イエス・キリストの人格と業	25. 補遺 B 復活	12. 第 9 章 文脈においてイエス・キリストを告白すること	26. 補遺 C 政治神学	13. 第 10 章 聖霊とキリスト者の生	27. 補遺 D 無神論	14. まとめ	28. まとめ
前期	後期																																	
1. はじめに 教義学とは	15. 夏休み課題発表																																	
2. 神学思想史 1	16. 第 11 章 新しき共同体 1																																	
3. 神学思想史 2	17. 第 11 章 新しき共同体 2																																	
4. 第 1 章 神学の営み	18. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 1																																	
5. 第 2 章 啓示の意味	19. 第 12 章 宣教、聖礼典、そしてミニストリー 2																																	
6. 第 3 章 聖書の権威	20. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 1																																	
7. 第 4 章 三位一体の神	21. 第 13 章 イエス・キリストの決定性と宗教多元主義 2																																	
8. 第 5 章 神の良き創造	22. 第 14 章 キリスト者の希望 1																																	
9. 第 6 章 神の摂理と悪の不可解さ	23. 第 14 章 キリスト者の希望 2																																	
10. 第 7 章 被造物、罪びと、そしてキリストにおける新しい存在としての人間	24. 補遺 A 自然神学																																	
11. 第 8 章 イエス・キリストの人格と業	25. 補遺 B 復活																																	
12. 第 9 章 文脈においてイエス・キリストを告白すること	26. 補遺 C 政治神学																																	
13. 第 10 章 聖霊とキリスト者の生	27. 補遺 D 無神論																																	
14. まとめ	28. まとめ																																	
【評価方法】																																		
<p>授業での担当箇所の発表内容や討議への積極的な参加態度を重視します。前期、後期に課題レポートを課します。夏休みの課題を課します。</p>																																		
【テキスト】																																		
<p>Daniel L. Migliore, Faith Seeking Understanding: An Introduction to Christian Theology, third ed. 2014 ※第三版ですので、間違えないように。</p> <p>(日本語訳は 9 章まで、D.L.ミグリオリ著 下田尾治郎訳『現代キリスト教神学 理解を求める信仰上』日本キリスト教団出版局 2016 年)</p>																																		
【参考書】																																		
<p>A.E.マクグラス『キリスト教神学入門』教文館 2002 年 東京神学大学神学会[編]『新キリスト教組織神学事典』教文館 2018 年</p>																																		
【備考】																																		

科目名	担当者名	単位数	時間	2・3・B・聴
バプテスト史	村椿 真理	4	火・5	
【講義概要】 17世紀初頭から19世紀後半までの英国のバプテスト、また17世紀から20世紀後半の米国バプテストの諸体験に焦点を当てた「バプテストの歴史」を学ぶ。				
【講義計画】 前期 (Semester 1)				
1、序論 (An introduction to the course)				
2、英国非国教派 (English Dissenters or English Separatists)				
3、二つの潮流 (The origin of the two current, General Baptist and particular Baptist)				
4、初期英国バプテスト教会の主張 (Principle of Early England Baptist Churches)				
5、17世紀バプテスト礼典論 (Seventeenth-Century Baptist Views of Baptism and the Lord' s Supper)				
6、新生論 (Doctrine of Regeneration.) と献児式 (Child Dedication Service)				
7、17～18世紀厳格バプテストとカルヴィニズム (17-18th Century Strict Baptist and Calvinism)				
8、18世紀啓主義と信仰覚醒運動 (18 th Century Enlightenment and Revival movement, Baptist Spirituality)				
9、超カルヴァン主義的バプテストとニューコネクション (High Calvinistic Baptists and the New Connexion)				
10、アンドリュー・フラー人と思想概説 (Overview of the Life of Andrew Fuller)				
11、BMSの設立とケアリーの宣教 (The Founding of The Baptist Missionary Society and W. Carey' s India)				
12、フラーの貢献 (Andrew Fuller' s Contribution to the Work of the Baptist Missionary Society)				
13、英国バプテスト同盟 (British Baptist Union) — コングリゲーショナル連合 (Congregational Union)				
14、非主流派の系譜 (Non-mainstream faction, Genealogy of strict Baptist)				
15、世界のバプテスト教会 (Baptist church of the World)				
後期 (Semester2)				
1、ニューイングランドのバプテスト (New England Baptists)				
2、ロジャー・ウィリアムズと政教分離思想 (Roger Williams and Separation of state and church ideas)				
3、米国合衆国憲法修正第一条制定の背景 (Background to Establishment of First Amendment to the Constitution)				
4、バプテスト・アソシエーション設立と諸派 (Establishment of Baptist Association and Various Baptists)				
5、バプテストと反奴隷貿易運動 (Baptist and the Campaign to Abolish the Slave Trade)				
6、米国連合州独立と奴隷制度 (Independence of Confederate States of America, and Theory of slavery)				
7、DVD鑑賞「それでも夜は明ける」 (Watch DVD movies “12 years a Slave” , 8、DVD 後半部鑑賞				
9、大覚醒とバプテスト信仰 (The Great Awakening and Baptist faith)				
10、社会的福音運動 (The Social Gospel Movement) — (Thought of Walter Rauschenbusch)				
11、日本における社会的福音運動 (The Social Gospel Movement in Japan)				
12、根本主義とバプテスト (Fundamentalism and Baptist)				
13、日本バプテスト伝道開始 (The start of the Baptist of Japan evangelism)				
14、教科書を読んだ話し合い (Discussion after reading textbooks)				
15、まとめ-バプテスト教会の歴史的貢献 (Summary - Historical contributions of Baptist Church)				
【評価方法】 成績評価は以下の方法で行う。 レポート : 100%				
【テキスト】 『見えてくる バプテストの歴史』 村椿真理他、共筆、関東学院大学出版会 (ISBN 番号、9784901734417)				
【参考書】 講師著書『バプテストの歴史と信仰思想』第1～4巻、関東学院大学出版会。『バプテストの教会契約』ヨルダン社、『バプテストの貢献』シリーズ、関東学院大学キリスト教と文化研究所「研究叢書」1～3巻等は、購入可。				
【備考】 特になし				

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B・聴
ヘブライ語聖書学 III (旧約神学)	渡邊さゆり	4	火・1	
【講義概要】				
<p>本講義において学生がより深くヘブライ語聖書を読み、現代を生きる人間、そしてキリスト教共同体のあり方についての問いを抱くことができると考えています。それら、提出された問いへ、「わたしたち」なりの応答をしながら、ヘブライ語聖書が映し出してきた「世界」に目を向け、現在の「世」に対して自分はキリスト者として何を負い、語りうるのかを討議していきたいと思ひます。</p> <p>「宣教」「キリスト教会」「聖書」、「召命」…牧者として働こうとする自己への問いを深化し学び続けることを期待しています。またイエスの宣教の動機と評価は、ヘブライ語聖書の思想、歴史認識とどのように接続しているのかを探求する講義です。持ちうる知識にとどまらず、再読、再解釈を試みながら、自己の信仰を問いただす時間をもってゆきたいと思ひています。学生たちの熱心なかかわりを求めます。</p> <p>講義形式と、講義への応答としての発表形式を組み合わせせて展開します。</p>				
【講義計画】				
<p>各学期ごとに、主に次のテーマをとりあげ、各テーマごとにテキストを選択し、精読、注解、そして神学的テーマについての議論をゼミ形式で行います。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 創世について P資料の創造論にある「人間理解」をめぐって 2. 「土地」「土」と結びつけられる古代ユダヤ社会の「人間理解」 3. 「契約」と排除の思考 4. ヘブライ語聖書から読み解く「罪」～創世記3章の読み直しと、「キリスト教的」罪の理解 5. ヤハウエという言葉をめぐる考察 6. 「出エジプト」はどのように読み継がれてきたのか <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘブライ語聖書から「平和」を考え直す 2. 神殿の建築と維持は、どう評価されるべきか 3. ヤロブアムによる北部統治の意義を問う 4. 預言者運動とその視座 王国意識への抵抗とその行方～イエスの宣教とは何だったのか 5. ヘブライ語聖書に描かれている女たち 6. ヘブライ語聖書に描かれている女たち2 				
【評価方法】				
講義内における発表30%、前期レポート30%、後期レポート40%				
【テキスト】				
特に指定しない。ハンドアウトを配布する。				
【参考書】				
講義中に紹介する予定。				
【備考】				
ヘブライ語聖書学I既習を前提に講義を進めます。				

科目名	担当者名	単位数	時間	2・3
新約聖書学Ⅲ	益 巖	4	水・3	
【講義概要】				
<p>十字架において処刑されたイエスがなぜキリスト（救い主）と新約聖書では受け止めることができたのでしょうか。これが、本講座の基本的なテーマです。このテーマをみていくためには、イエスがなぜ十字架に架けられたのかを検証していく必要があります。そのためには、ユダヤ人指導者たちはイエスの考えや行動の何に反発をしたのでしょうか。このことを本講座では主に取り上げていきます。そして、この十字架に架けられたイエスがどうしてキリストであると初代教会では受けとめることができたのかを見ていきます。</p>				
【講義計画】				
<p>前期はイエスの行動と考え方がどうしてユダヤ人指導者たちと衝突をもたらしたのかを探っていきます。そのためにはユダヤ人たちの考え方、及び行動の根拠になっていたものは何であったのかを学んでいきます。</p> <p>後期は、十字架に架けられたイエスを救い主として受け止めたパウロの思想と初代教会の考え方を見ていきます。</p>				
【評価方法】				
<p>授業出席、及び授業への取り組み、課題レポートの内容によって評価します。</p>				
【テキスト】				
<p>W. G. キュンメル 山内 真 訳 『新約聖書神学』 日本基督教団出版局（オンデマンド版）</p>				
【参考書】				
<p>『新約聖書の周辺世界』 E. ローゼ 加山宏路/加山久夫訳 日本キリスト教団出版局 オンデマンド版</p> <p>『新約聖書神学概説』 E. ローゼ 小川 陽訳 日本キリスト教団出版局 オンデマンド版</p> <p>その他 授業の中で、その都度紹介する。</p>				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B
牧会学	小野慈美	4	木・4	
【講義概要】				
<p>・「牧会」と呼ばれる牧師の働きは、多岐にわたる。牧師が遣わされる教会、地域などの状況によっても、求められる働きの内容も優先順位も異なってくる。同じ教会でも、時代の変化によって牧会の内容も変化する。また、「牧会的な働き」は、牧師だけが担うものではない。</p> <p>・この授業では、主として、狭義の「牧会」を扱う。その上で、個別教会を越えた組織との関わり、教会と地域社会、現代社会との関わりなどにも触れ、「牧会」ということばで表現される働きをさまざまな視点から考えていく。</p>				
【講義計画】				
<p>前期は、テキストの『「健康な教会」をめざして』を読みながら、教会の働きの諸側面について学ぶ。授業では、担当者が、割り当てられた章の内容についてレポートし、考えるべき課題を提起し、それについてディスカッションをする。また、必要に応じて、他の参考書の内容を取り上げる。</p> <p>後期は、「牧会」と呼ばれる種々の働きを、できるだけ具体的な事例をとりあげて考える。講義とディスカッションによって学ぶ。また最後にバプテスト教会固有の諸課題を取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教会運営に関することから ○教会共同体に対する牧師の責任 ○教会の事務的な営み：組織としての教会、役員会、教会事務、宗教法人、文書管理など ○牧会的な対話：牧会相談、心病む人との対話、訪問、信徒の相互牧会など ○礼拝に関すること：礼拝の司式、讃美歌の選び方、礼拝のスタイル、聖礼典 ○説教と牧会 ○冠婚葬祭 特に葬儀・結婚式 ○教会と地域社会・付帯事業・社会問題 ○牧会者自身の問題：牧会者とその家族、牧会者自身の心身のケアなど ○バプテスト教会の特質とその課題：教師と信徒、個別教会と同盟、超教派的な交わりなど 				
【評価方法】				
出席状況、授業の課題、レポートによって総合的に評価する。				
【テキスト】				
越川弘英編、関谷直人著『「健康な教会」をめざして』（キリスト新聞社）2007年				
【参考書】				
<p>ウィリアム・ウィリモン著、越川弘英訳『牧師』（新教出版社）2007年</p> <p>関西学院神学部編『信徒と牧師』（キリスト新聞社）2008年</p> <p>越川弘英編著『牧会ってなんだ？』（キリスト新聞社）2008年</p> <p>八木谷涼子著『もっと教会を行きやすくする本』（キリスト新聞社）2013年</p> <p>藤掛明 他 編著『牧会相談の実際』（あめんどう）2014年</p> <p>雑誌「ミニストリー」（キリスト新聞社）バックナンバー</p>				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	2・3・B
説教演習	小野慈美	4	木・3	
<p>【講義概要】</p> <p>「説教とは、今ここで語られる神の言葉である」という言葉の意味を確認する。 聖書テキストの選択から説教に至るまでの実際のプロセスをたどりながら、説教の作成を試みる。 説教は、本来、語られ、聞かれるべきものであるので、実際的な訓練をできるだけ取り入れる。 また、結婚式、葬儀など様々な場面の説教作成をし、最後に、礼拝・牧会との関連で説教を考える。</p>				
<p>【講義計画】</p> <p>前期： 『説教を知るキーワード』を少しずつ読みながら、並行して説教作成のプロセスをたどる。 積義の実際 説教原稿の作成 説教の演習 説教の分析</p> <p>後期： 旧約をテキストとした説教 教会暦に基づく説教 結婚式、葬儀の説教 礼拝と説教 説教と牧会 説教者の自己理解</p>				
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、積義レポート、説教原稿、説教演習を総合して評価する。 ※学期末・年度末のレポートはない。試験は実施しない。</p>				
<p>【テキスト】</p> <p>平野克己『説教を知るキーワード』（日本キリスト教団出版局）2018年</p>				
<p>【参考書】</p> <p>R.リシャー 平野克己・宇野元 訳『説教の神学』－キリストのいのちを伝える 教文館 2004年 W.H.ウィリモン 越川弘英・岩見育子 訳『礼拝論入門』新教出版社 1998年（5-7章が説教論） W.H.ウィリモン 越川弘英・坂本清音 訳『牧師』新教出版社 2007年 （5章「聖書解釈者としての牧師」 6章「説教者としての牧師」） W.H.ウィリモン 上田好春 訳『異質な言葉の世界』－洗礼を受けた人にとっての説教 日本キリスト教団出版局 2014年 加藤常昭 『説教への道』－牧師と信徒のための説教 日本キリスト教団出版局 2016年 浅野淳博 他 『新約聖書解釈の手引き』 日本キリスト教団出版局 2016年</p>				
<p>【備考】</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B
牧会カウンセリング	久保親哉	2	火・5	
【講義概要】				
<p>本講義は、牧会者として歩む志を与えられた最終学年の学生を対象に行います。</p> <p>牧会、地域宣教の現場で出会わされた「経験」を分かち合いながら、討議をすすめ、特に、精神保健の基礎知識や歴史を学びます。</p>				
【講義計画】				
<p>講義は、年間を通じて半期分、以下の日程で行います。</p> <p>4/21, 28, 5/19, 26, 6/16, 23, 7/7, 7/16, 9/15, 10/20, 27, 11/17, 12/8, 1/5</p> <p>前半は精神科に関わる病気、社会資源等について、講義を行います。</p> <p>後半は事例検討やロールプレイを行います。</p> <p>また、精神科医からの講義（7/16（補講日）の予定）、また、精神科病院や社会資源の見学を行います。</p> <p>詳細は、後日、受講生に連絡します。</p>				
【評価方法】				
出席を重視し、講義内の取り組みで評価します。				
【テキスト】				
後日、指定します。テキストを使用しない間、印刷物を配ります。				
【参考書】				
講義内で、適宜、紹介の予定です。				
【備考】				
学外で行う講義も予定しています。詳細は、講義内で説明させていただきます。				

科目名	担当者名	単位数	時間	2・3・B・聴
実践神学 II	渡邊さゆり	4	金・2	(聴講には実践神学 I、もしくはキリスト教学既習が望ましい)。
【講義概要】				
<p>本講義では、まず、「神学領域」としてこれまで学んだ事柄を問うことから始めたいと考えています。関田寛雄『断片の神学』で取り上げられているテーマを、歴史性に軸足を置き、講義したいと思います。理論から実践という神学形成から、実践から理論、そして実践という循環型の神学形成への転換をよびかける日本の実践神学のいくつかの著作から学びます。これからの「宣教」についての討議をおこないたいと思っています。</p> <p>前期は、前述の関田の著作を中心に、日本における宣教論から話し合いを行い、後期は、S. Nussbaum “A Reader’s Guide to Transforming Mission”を読みながら、ボッシュの宣教論を批判的に議論します。そして、「これからの伝道者養成」についても、受講者と共に話し合いをしていけたらと考えています。積極的に取り組んでほしいと思います。</p>				
【講義計画】				
<p>前期 関田寛雄『断片の神学 実践神学の諸問題』日本キリスト教団出版局 2005年を読む。</p> <p>特に、第二～四章のいくつかの項については、講義後、学生による応答発表を求めます。受講生と教員に対して、自らの宣教論をわかりやすく、啓発的に発表することを試みてほしいと望みます。</p> <p>後期 S. Nussbaum, “A Reader’s Guide to Transforming Mission”, Orbis, 2005.を講読しながら、ボッシュの宣教論を批判的に読み解いていきます。受講生は、D. Bosch の Transforming Mission を参照し、日本語訳されたいくつかの宣教に関する著作にも触れ、バプテスト教会における「宣教の課題」から自らの宣教の姿勢を問うていければと思います。</p> <p>各学期ごとに、牧会の現場で働いている方の講演を予定しています。6月12日には、新生会の教役者から講演いただく予定です。</p> <p>講義期間外にも、学外研修、学習会、講座に積極的に参加、所属し、相互学習を進めてほしいと思います。</p>				
【評価方法】				
講義内発表 30%、前期レポート 30%、後期レポート 30%、出席（学外研修を含む）10%。				
【テキスト】				
関田寛雄『断片の神学 実践神学の諸問題』日本キリスト教団出版局 2005年 S. Nussbaum, “A Reader’s Guide to Transforming Mission”, Orbis, 2005.				
【参考書】				
講義内で適宜紹介していきます。				
【備考】				

科目名	担当者名	単位数	時間	3・B		
教義学特講	高橋 彰	4	木・1			
<p>【講義概要】 ボンヘッファー、バルト、そして日本</p> <p>20世紀前半の二つの世界大戦の時代、ドイツではプロイセンのドイツ帝国からワイマール共和政ができたもののナチス・ドイツの台頭によりたった14年で崩壊し、ヒトラー政権による独裁支配が起り、厳しい宗教弾圧、国家的な人種差別と迫害により大量殺戮が行われました。戦争の時代に、国家で何がなされ、教会やキリスト者たちはどのようにあったのか、背景を詳しく調べて学びます。</p> <p>時代の危機と問題をいち早く見抜き、抵抗して戦った神学者ディートリッヒ・ボンヘッファーを取り上げ、彼の生涯と活動をたどり、代表的著作『キリストに従う (Nachfolge)』を精読し、彼の思想の内容と特色を学びます。また、告白教会の連帯を呼びかけナチス・ドイツを批判し抵抗したカール・バルトの活動と彼が起草に関わった「バルメン宣言」の内容を精読します。</p> <p>さらに、バルト神学の影響を大きく受けながらも、同時期に、軍国主義国家への抵抗ではなく、国家主義に取り込まれてしまった日本のキリスト教会の状況についても合わせて検証し考察します。戦後75年を迎える今年、「国家と教会」という課題を深く理解し、考察することを目標とします。</p> <p>学生の発表によるゼミ形式で授業を行います。担当者はテキストの内容要約だけでなく関連する書物にあたって課題を掘り下げて調べ、必ずレジュメを作成して発表してください。学びを進める中で、探求の方法論を身に付け、自ら問題意識を持ち、取り組んでゆくこと。また「神学する」自身を問い直し、主体的に学びや議論を展開して実践してゆくようになることを期待します。</p> <p>発表担当以外の箇所でも受講者は必ず事前にテキストを精読して疑問や質問を見つけておき、発表者に対してコメントをすること。発表者は授業での議論を踏まえ、また出された質問や指摘された点を次週までに調べてレポートを完成させ、提出してください。</p>						
<p>【講義計画】</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 戦争と教会①第一次世界大戦と教会 3. 戦争と教会②ヴァイマル共和国と教会指導層 4. 戦争と教会③ナチス政権の成立と教会闘争 5. 戦争と教会④第二次世界大戦とドイツの教会 6. 戦争と教会⑤戦時下の宗教弾圧と抵抗 7. 戦争と教会⑥シュトゥットガルト罪責宣言 8. ボンヘッファーの生涯と活動① 9. ボンヘッファーの生涯と活動② 10. 『服従』について 高価な恵み 11. 学生発表①服従への招き、単純な服従 12. 学生発表②服従と十字架、服従と個人 13. 学生発表③祝福、見える教会 14. 学生発表④キリストの義、兄弟、女、真実 </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 学生発表⑤報復、敵—「特異なもの」 16. 学生発表⑥隠れている義、祈りの秘匿性 17. 学生発表⑦敬虔な修練の秘匿性、 思い煩いのない生活の単純さ 18. 学生発表⑧弟子と信じない者たち、 大いなる分離、終結 19. 学生発表⑨使者 20. 学生発表⑩予備的な問題、洗礼 21. 学生発表⑪キリストのからだ、見える教会 22. 学生発表⑫聖徒、キリストのかたち 23. カール・バルトの生涯と神学 24. バルメン宣言① 25. バルメン宣言② 26. 戦時下の日本のキリスト教と神学① 27. 戦時下の日本のキリスト教と神学② 28. まとめ </td> </tr> </table>					<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 戦争と教会①第一次世界大戦と教会 3. 戦争と教会②ヴァイマル共和国と教会指導層 4. 戦争と教会③ナチス政権の成立と教会闘争 5. 戦争と教会④第二次世界大戦とドイツの教会 6. 戦争と教会⑤戦時下の宗教弾圧と抵抗 7. 戦争と教会⑥シュトゥットガルト罪責宣言 8. ボンヘッファーの生涯と活動① 9. ボンヘッファーの生涯と活動② 10. 『服従』について 高価な恵み 11. 学生発表①服従への招き、単純な服従 12. 学生発表②服従と十字架、服従と個人 13. 学生発表③祝福、見える教会 14. 学生発表④キリストの義、兄弟、女、真実 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 学生発表⑤報復、敵—「特異なもの」 16. 学生発表⑥隠れている義、祈りの秘匿性 17. 学生発表⑦敬虔な修練の秘匿性、 思い煩いのない生活の単純さ 18. 学生発表⑧弟子と信じない者たち、 大いなる分離、終結 19. 学生発表⑨使者 20. 学生発表⑩予備的な問題、洗礼 21. 学生発表⑪キリストのからだ、見える教会 22. 学生発表⑫聖徒、キリストのかたち 23. カール・バルトの生涯と神学 24. バルメン宣言① 25. バルメン宣言② 26. 戦時下の日本のキリスト教と神学① 27. 戦時下の日本のキリスト教と神学② 28. まとめ
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 戦争と教会①第一次世界大戦と教会 3. 戦争と教会②ヴァイマル共和国と教会指導層 4. 戦争と教会③ナチス政権の成立と教会闘争 5. 戦争と教会④第二次世界大戦とドイツの教会 6. 戦争と教会⑤戦時下の宗教弾圧と抵抗 7. 戦争と教会⑥シュトゥットガルト罪責宣言 8. ボンヘッファーの生涯と活動① 9. ボンヘッファーの生涯と活動② 10. 『服従』について 高価な恵み 11. 学生発表①服従への招き、単純な服従 12. 学生発表②服従と十字架、服従と個人 13. 学生発表③祝福、見える教会 14. 学生発表④キリストの義、兄弟、女、真実 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 学生発表⑤報復、敵—「特異なもの」 16. 学生発表⑥隠れている義、祈りの秘匿性 17. 学生発表⑦敬虔な修練の秘匿性、 思い煩いのない生活の単純さ 18. 学生発表⑧弟子と信じない者たち、 大いなる分離、終結 19. 学生発表⑨使者 20. 学生発表⑩予備的な問題、洗礼 21. 学生発表⑪キリストのからだ、見える教会 22. 学生発表⑫聖徒、キリストのかたち 23. カール・バルトの生涯と神学 24. バルメン宣言① 25. バルメン宣言② 26. 戦時下の日本のキリスト教と神学① 27. 戦時下の日本のキリスト教と神学② 28. まとめ 					
<p>【評価方法】 担当箇所の授業での発表、また発表の翌週までにまとめ、レポートとして提出すること。授業に積極的に参加し、発言し議論に加わることをもって評価します。</p>						
<p>【テキスト】 河島幸夫『戦争と教会 ナチズムとキリスト教』いのちのことば社 2015年 ディートリッヒ・ボンヘッファー 森平太訳『キリストに従う』新教セミナーブック 2003年 宮田光雄『バルメン宣言の政治学』新教出版社 2014年</p>						
<p>【参考書】 E. ベートゲ 村上伸訳『ボンヘッファー伝』1~4 新教出版社 宮田光雄『ボンヘッファー 反ナチ抵抗者の生涯と思想』岩波現代文庫 2019年 エーバハルト・ブッシュ 佐藤司郎訳『バルト神学入門』新教出版社 2009年 その他、授業で適宜資料配布、参考図書を紹介します。</p>						
<p>【備考】</p>						

科目名	担当者名	単位数	時間	選択・聴
新約ギリシャ語	森島 恵	4	水・3	
<p>【講義概要】 前期 新約聖書ギリシャ語に親しむ。 後期 ギリシャ語聖書の言葉に触れる。</p>				
<p>【講義計画】 前期 ①ギリシャ語に慣れ親しむ ②ギリシャ語の読み書き ③ギリシャ語文法に取り組む 後期 ギリシャ語聖書の言葉に触れる ①主イエスのみ言葉に触れる ②パウロの手紙に触れる</p>				
<p>【評価方法】 毎回、小テストを実施する。授業の出席をカウントする。</p>				
<p>【テキスト】 「聖書ギリシャ語入門」野口 誠著 いのちのことば社</p>				
<p>【参考書】 「新約聖書ギリシャ語原典入門」J.G.メイチェン著 田辺 滋 訳 新生宣教団 「新約ギリシャ語辞典」岩隈 直 著 「新約聖書ギリシア語小辞典」織田 昭 著 「ギリシャ語新約聖書釈義事典 I, II, III」 教文館</p>				
<p>【備考】</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	選択・聴
キリスト教教育学	比企敦子	2	火・3	
<p>【講義概要】</p> <p>「明治期～現在までの日本の教会教育の歴史を学び、今日求められている宣教課題を考える」</p> <p>日本では200年を超える鎖国状態以前のキリシタン禁制下で布教がなされたが、1873年に高札が撤去された後に始めて公に宣教活動が始まった。明治期の高等教育・公立学校は主に男子対象であったため、宣教師は日曜学校、幼児教育、女子キリスト教教育へと向かった。欧米文化への憧憬や大正デモクラシーによってキリスト教教育は開花するが、天皇制の制約下であった。列強と肩を並べたい政財界の思惑は西欧文化やキリスト教への接近・支援となり、1920年の第8回世界日曜学校大会開催となった。開国以来の国家的イベントは大成功を取めたが、その後の歩みが方向付けられたとも言える。</p> <p>1907年にNCC教育部の前身である日本日曜学校協会(NSSA)が設立され、多教派がひとつにまとまった。その結果としてアジアで初めての世界大会開催であったが、日本の植民地支配に苦闘していた朝鮮や中国のキリスト者の参加はなかった。そのようなNSSAの歩みはやがて翼賛体制へと組み込まれていく土壌となった。1931年の満州事変を経て、1937年の日中戦争開始時、NSSAは戦争支持を表明。各教派は日本キリスト教団としてひとつに統合され戦争協力への道を突き進む。聖書の言葉を引いて、子どもたちに戦争協力を呼び掛けた教案誌が残されている。讚美歌の歌詞は軍隊の言葉と一体化し、皇軍への祈りと励まし献金が呼びかけられた。神武天皇に始まる「皇紀」が堂々と用いられ、天皇を仰ぐ教会となった。</p> <p>日本の教会やキリスト者が、時の政権や政策に無批判なまま取り込まれていった歴史の背景を学び、平和をつくりだす働き人として、自らの課題として捉えたい。アジアの平和のためには何が必要か、韓国・共和国・沖縄・在日コリアン・外国にルーツをもつ子どもたちにも目を向けたい。</p> <p>現在日本の公教育の場でなされている愛国的国家主義教育(「日の丸・君が代」の強制、道徳の教科化、歴史修正主義に立つ教科書問題など)の現状を知り、教会に来ている子どもたちの背景を把握する。</p> <p>様々な差別問題、ジェンダーをめぐる課題、マイノリティー、LGBTQ+peopleの抱えている課題を知り、平和教育・人権教育としてのキリスト教教育、教会教育の豊かさを実感してほしい。</p>				
<p>【講義計画】</p> <p>テキストを元に歴史資料を紹介し、最後にNCC教育部平和教育資料センターを見学する。DVDを見ながら7つの時代区分に分け、大きな流れを把握し特色と問題点を理解する。前回の講義を振り返りつつ、自分の考えをまとめる。</p>				
<p>【評価方法】 規定の出席と下記の取り組みを総合的に判断、センター見学は必須</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが受けたCSや教会生活の検証ができたか ・日本やアジア諸国の歴史理解に取り組めたか ・教会教育の功罪を客観的・批判的にみることができたか 				
<p>【テキスト】</p> <p>「NCC教育部平和教育資料センター ガイドブック」(4か国語)(NCC教育部発行) ¥300 必要に応じて資料プリント配布</p>				
<p>【参考書】『教会教育の歩み—日曜学校から始まるキリスト教教育史』(教文館発行) ¥2,000、同DVD</p>				
<p>【備考】 開講日</p> <p>4月14日、28日、5月12日、6月2日、9日、16日、23日、7月7日、21日、 9月15日、29日、10月6日、13日、20日 (前期9回、後期5回)</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	基礎課程・聴講
社会学	堀江有里	2	集中講義	
<p>【講義概要】</p> <p>「社会」とは何か——普段、何気なく使っている「社会」という言葉は、なかなか定義できないものです。本講義では、社会学の成り立ちや基本概念のいくつかを学習することによって「社会」のしくみを考えます。そのうえで、学問としての「社会学」のモノの考え方に触れることによって、“あたりまえ”を考えなおしてみる作業を一緒に行ないましょう。具体的には、個人と社会、家族や学校などの集団と社会、国家と社会などについて考えていきたいと思えます。</p>				
<p>【講義計画】</p> <p>以下の通り計画していますが、受講生の関心や理解度によって変更する可能性があります。ほか2回分の講義時間に映像視聴をおこなう予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. イントロダクション：「社会学」の考え方 02. 社会学の理論と背景（1）：近代社会の成立と社会学の誕生 03. 社会学の理論と背景（2）：社会問題の社会学 04. 個人と社会（1）：自己・アイデンティティ 05. 個人と社会（2）：他者・相互行為 06. 集団と社会（1）：家族・結婚 07. 集団と社会（2）：性 08. 集団と社会（3）：学校・教育・規律 09. 国家と社会（1）：国民国家・シティズンシップ・民族 10. 国家と社会（2）：移動・グローバル社会 11. 国家と社会（3）：天皇制 12. ふりかえりとまとめ 				
<p>【評価方法】 学期末レポートの提出を求めます。</p> <p>ほか、出席状況や授業への貢献度も含めて総合的に判断します。</p>				
<p>【テキスト】 特に指定しません。レジュメを配布します。</p>				
<p>【参考書】</p> <p>見田宗介『社会学入門 ——人間と社会の未来』（岩波新書、2006年）</p> <p>アンソニー・ギデンズ『社会学（第5版）』松尾精文ほか訳（而立書房、2009年）</p> <p>ランドル・コリンズ『脱常識の社会学 ——社会の読み方入門』井上俊・磯部卓三訳（岩波現代文庫、2013年）</p> <p>ほか、講義内に紹介します。</p>				
<p>【備考】</p> <p>開講日 10月3日、17日、11月7日（午前、午後）</p>				

科目名	担当者名	単位数	時間	基礎課程・聴講
英語	渡邊さゆり	2	火・3	
【講義概要】				
<p>本講義は、基礎課程教師養成コース学生のために開講される英語を使用した文献読解のための英語入門です。受講生が英語文献の読解のための基本的な文法や、いいまわし、使用頻度の高い語彙力を身に着けるために、簡単な「信仰書」と、歴史教科書を読みます。英語検定2級以上の実力を身に着け、日常的に英語を使用することが出来ることが目標です。開講回数が少ないため、予習復習を必要とします。</p>				
【講義計画】				
前期				
P. Yancey “Vanishing Grace What Ever Happened to the Good News?” Hodder and Stoughton 2014 Part Three: Is It really Good News? を読解しながら、英文法の説明をします。				
後期				
橋場 弦 岸本美緒 小松久男 水島司 監修『英文 詳説 世界史』山川出版社 World History for High School のパートIを読みながら、古代社会についての理解を深めてゆきます。				
【評価方法】				
各講義中で行う単語テスト30%、前期テスト30%、後期テスト40%				
【テキスト】				
P. Yancey “Vanishing Grace What Ever Happened to the Good News?” Hodder and Stoughton 2014 橋場 弦 岸本美緒 小松久男 水島司 監修『英文 詳説 世界史』山川出版社 World History for High School				
【参考書】 各自、English-Japanese の辞書を持参のこと（電子辞書でも可）				
【備考】				
開講日 4/7, 21, 5/19, 26, 6/2, 30, 7/14, 10/27, 11/10, 17, 24, 12/1, 8, 15				

<<沿革>>

日本バプテスト神学校は、日本バプテスト同盟の伝道者養成のために建てられている学校である。

1972年、日本バプテスト同盟は、それまで伝道者養成の働きを委託してきた関東学院大学神学部の廃止により、伝道者養成の働きを全く独自の形で推進することを決定し、「宣教研修所」を設立した。「宣教研修所」では、他の神学校・神学部で学んでいる学生と連絡を取りながら、バプテストとしての学びを集中的に行った。1982年より、関東学院大学の旧神学館を教室として借り、本格的に伝道者養成の働きを開始した。近隣の牧師、関東学院大学、また関東学院女子短期大学の教師が協力し、伝道者養成の業が継続された。そして、宣教研修所設立24年目の1996年度に、宣教研修所の伝道者養成部門を「日本バプテスト神学校」と名称変更し新しい歩みを開始。以降は、養成部門を「日本バプテスト神学校」とし、研究・研修部門は「宣教研修所」として働きをなした。1997年「日本バプテスト神学校」の校舎・宿舎の建設が完成し、日本バプテスト同盟の伝道者養成に新しい息吹を与えた。

宣教研修所及び日本バプテスト神学校の教師コースの卒業生は108名になり、各方面で活躍している。また、信徒コース修了者は、41名でそれぞれの教会、伝道所で活躍している。

<<学生心得>>

学生は、すべての事柄の第一に祈りをおきましょう。個人的な事情や様々な困難の中にあっても、学びをおろそかにせず、神学研究に参加することを特別に与えられた神の恵みと受け止め、真摯に学びましょう。伝道者として召された自覚を確認し、全国の教会・伝道所の祈りと貴い献げもの、奉仕によって運営される当校で学ぶことを感謝し、神学研究を通して教会に奉仕するものと造りかえられていきましょう。学業中に起こる様々な問題や葛藤を、神学校教師、教会教師、そして共に学ぶ仲間と共に分かち合い、祈り乗り越え、神の計画に基づく献身の道を進んでいきましょう。

神学校では、共同生活を行っています。他の学生の学びの妨げになるような態度を慎み、良識をもって生活することを心がけてください。

<<学期と評価 講義日程中の注意>>

前期は4月 1日より7月31日

後期は9月 1日より1月31日

授業への出席が全体の各学期の3分の2に満たない者は、単位取得を認められない。遅刻しないこと。遅刻、怠学は、神への誠実を欠く行為である。自己管理につとめ、事故防止、回避を心がけ、授業出席を大切にすること。やむを得ない事情が生じた場合は連絡をすること。休講、時間割変更などについての連絡を受け取った場合には連絡受領を知らせること。

各科目の合格点 60点 以上

成績評価の方法は、各担当者が定めている。単位認定は校長の責任において行っている。

授業を欠席する場合は、事前に担当教員と神学校に事前に連絡をする。

教会実習（通年、集中）を欠席しないこと。やむを得ない事情が生じた場合は実習先の教会教師とフィールドワーク担当者に必ず事前に連絡をすること。

講義への出席は登録をし学生として入学を許可され、校長と担当教員から講義への出席を許可された学生のみである。見学、途中聴講などは、その都度、所属教会の代表役員の推薦と承諾をもって書面で申し出、校長の許可が事前に必要である。

<<図書利用について>>

本校図書を利用できるのは、在学生、教員、職員、および、本校校長が認めた者である。

図書は、参考図書（辞典類）、注解書、禁帯出図書以外を借りることができ、貸出を希望する場合には事務所にある図書貸し出しノートに必要事項を記入の上、貸し出しを受ける。返却の場合も同様に手続きをする。図書は共用財産である。勝手に持ち出し、返却を遅延させてはならない。図書の貸し出しは、一人一回5冊以内2週間とする。図書貸し出しは、講義日程期間 午前9時半から午後5時まで。休暇中の開架については別に定める。図書室の利用については午前9時から午後9時までとする。

<<施設利用について>>

校舎の整理整頓、清掃に努める。全学生が、校内清掃時間には協力して清掃する。

節電はもちろんのこと、水光熱費の削減に協力し、防火意識を高くもつこと。

自家用車での登校は原則禁止。身体的な事情や、やむを得ず車で登校する場合はあらかじめ主事に連絡し、許可をとること。継続的に自家用車で登校する学生は近隣の駐車場に契約すること。なお、自家用車での登校によって通学中に事故に遭遇しても登校での保険対象にはならない。原則自家用車登校は禁止であることを留意すること。寮生の駐輪については寮生活の項を参照すること。

避難、通報訓練に参加し、建物の維持管理に積極的に参与すること。

コピー機の使用は、白黒1枚10円。カラー1枚30円。事務室で利用料を支払うこと。ミスプリントも換算する。

戸塚伝道所との協力を理解し、水曜日の夜、日曜日に行われる集会に支障のないよう、事前の清掃に全員で努める。共有施設である自覚をもって感謝して利用する。

<<課程と在学期間>>

当校には下記の課程とコースがある。

I 基礎課程

1. 信徒伝道者コース（原則1年もしくは科目履修による複数年）

- (1) バプテスマを受領し、教会生活をしている者
- (2) 所属教会の推薦を受けている者

2. 教師養成コース（原則2年）

- (1) バプテスマ受領後一年以上教会生活をしている者
- (2) 伝道者としての召命を明確に自覚し、将来、同盟加盟教会その他で、伝道者として働くことを希望する者
- (3) 所属教会の推薦を受けている者
- (4) 高等学校卒業以上の学力を有する者

II 神学専門課程

1. 教師養成コース（原則3年）

- (1) 基礎課程を修了している者
- (2) 高専、短大、大学卒業以上の学力を有している者（要問合せ）、基礎課程教師養成コース入学資格の(1)から(3)を有する者

2. バプテストコース（原則1年）

- (1) 他の神学校、または大学神学部を卒業した者で、基礎課程教師養成コース入学資格の(1)から(3)を有する者（他の神学校については確認を要す）

授業料

入学金 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

維持管理費 年間 3万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は6万円）

授業料 年間 12万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は18万円）

入学金、維持管理費、授業料を4月末日までにゆうちょ払込票をもって各自納入すること。納入された諸費は、いかなる事情においても返還しない。

（科目履修・聴講）

前年度指定された期日までに、所属教会の推薦を得て所定の願書を提出した者は、所定の開講される講義を履修、聴講することができる。

科目履修・聴講は、一科目 年間 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

初年度に入学金 2万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は3万円）

維持管理費 3万円（日本バプテスト同盟加盟の教会以外の信徒は6万円）

を納入すること。

初めて科目履修・聴講する場合は、入学式、オリエンテーションに出席すること。

科目履修生は、登録をし、講義で指定されたレポート、試験を受け合格した場合は単位が認定され、後に入学を希望した場合にこれらの単位は換算される。

聴講生は、単位取得のために学ぶ学生たちの研究活動に支障をきたさぬよう授業へ参加をするものとする。

科目履修・聴講生の場合も、他の学生と同じく施設利用の注意を守り、神学校管理運営に協力し学びを進めていただきたい。

<<奨学金>>

神学専門課程の学生には、「日本バプテスト同盟伝道者養成奨学金制度」が適用される。

給付奨学金

伝道者養成奨学金制度規程に従い、神学専門課程の学生が毎年度申請し、年額28万円の給付を受ける。ただし、卒業後日本バプテスト同盟加盟の教会、伝道所、協力団体に伝道者として就任しない者、また就任後三年以内に伝道者としての職を辞任した者は、給付を受けた奨学金の全額を返還しなければならない。

特別奨学金

日本バプテスト同盟の教師コースの学生には、日本バプテスト同盟の医療費を援助する特別奨学金の制度がある。神学生及びその家族が不慮の疾病・事故等により、就学に支障をきたすと認められる場合、伝道者養成部委員会の判断において特別奨学金を給付することができる。特別奨学金の額及び期間は、伝道者養成部委員会の議決により決定する。

貸付奨学金

貸付金は月額5万円で、年間60万円、貸付期間は3年以内。希望者は連帯保証人と連名で申請をし、貸付金の決定を受ける。返済は、卒業後6ヶ月を経て後、毎月2万円を完済するまで返済する。無利息。

<<学生寮>>

入寮について

当校で学びを希望する者は、学生寮に入寮することができる。

入寮を希望し、認められた者は入寮することができる。寮生活の注意事項を守り、寮生活を送ること。学生寮舎監は、同盟規程通り、主事が務める。

荷物は各自の部屋に収納できる物のみとする。共有スペースなどに私物を大量におかない。寮の部屋には、ベッド、本棚、クローゼット、机、がある。布団は各自持参のこと。また、食堂には調理器具と冷蔵庫、電子レンジ、トースター、電気ポットがある。共有スペースには風呂、トイレ、洗面所、洗濯機がある。トイレ用トイレットペーパー、台所回り品などの消耗品については寮生の自己負担で準備すること。

寮費納入

月額2万円。滞納しないように前月末までに神学校へ払込票を用いて納入すること。あるいは、年間24万円をまとめて支払うようにする。

寮生として生活はしないが、講義日程期間中に荷物を特定の部屋に置き、定期的に宿泊予定のある学生は、4月中に主事に申し出をし、宿泊日をあらかじめ告げることとする。部屋の利用期間中も鍵を持つことはできない。

入寮希望者は定められた期日までに入寮願いを保証人（所属教会 代表役員）自署付きで提出し、校長の許可を得る。その他、寮の利用に関しては、入寮願いに記載されている通りである。

生活時間 以下の部屋の使用を、講義期間中、原則として次の時間までとする。午後5時以降の施設利用者は、各自責任をもって戸締りをする。

図書室 9:30-21:00まで（貸出返却は、講義実施日の午前9時半～午後5時まで）
礼拝堂 20:00まで/集会室 24:00まで

鍵について 鍵の管理は各自で行うこと。万一紛失したときは、遅延することなく即、主事に連絡するように。また、鍵の取り換え等にかかる費用は自己負担となる。

部屋替え 使用する部屋は年度ごとに替える。部屋替えは、年度末に行い、在寮期間中に同じ部屋を使わない。部屋替え時に、それまで使用した部屋を徹底的に清掃するように。

退寮 退寮する場合は、一ヶ月前には主事に申し出ること。寮費の精算を行い、各自荷物の搬出をして清掃し、不用品などを残さないようにする。鍵の返却をもって退寮とする。他の寮生との共同生活が損なわれるような行為が続く者については退寮を願う。

電話 電話連絡手段（固定電話契約、携帯など）は各自が用意すること。神学校事務所では個人への電話の取次ぎをしない。連絡先番号を、神学校事務所にしないように。また、各自の連絡先は、主事に伝え、変更がある際はすみやかに届け出るように。

車両 オートバイ、原付、自転車などを各自で用意し、利用することができる。各自いずれか一台とするように。なお、自動車は認めない。

動物の飼育 寮室、共有スペース内でのペットの飼育はできない。

暖房 各部屋設置のエアコンを使用するように。石油ストーブ、電気ストーブ等は、使用してはいけない。

節電 最大限の節電マナーを心がける。エアコンの消し忘れに注意し消灯確認をして部屋を出るように。

戸締り 出入りに際しては、各自戸締りをする。窓、ドアの施錠を必ずするように。

清掃 各自の部屋の清掃はもちろん、風呂、トイレ、食堂の清掃をすすんでおこなうように。また、学生は、一斉清掃に必ず参加するように。

ゴミ出し 食堂のゴミは、寮会で定めた当番が責任をもって朝8時までに所定の収集場所まで出す。それ以外のゴミは各自で処理する。可燃ごみ 月、金 リサイクル紙ごみ 水 プラスティックごみ 木 資源ごみ 土 大型のごみについては戸塚区の決まりに従って各自が廃棄処分すること。

冷蔵庫 2階食堂の冷蔵庫は共有。中の整理、清潔に心がけ、長期放置のないように。

寮生以外の宿泊 寮生が自室に寮生以外を宿泊させることはできない。家族、友人などの来訪がある場合は、集会室を利用し、宿泊を希望する場合は、ゲストルームを有料で使用する必要があるが、事前に校長の許可が必要である。

避難訓練 法定で定められている避難訓練を神学校が実施する際、必ず参加し、災害時避難の方法を確認し、日ごろから防災意識を高くもつ。

荷物の受け取り 前もって到着がわかっている小包、宅急便等の荷物は出来るだけ各自が受け取るように。

郵便物 住所は下記にある通り。「日本バプテスト神学校 内 ○○○○ 宛」とし、主事が郵便物を学生のレターケースに配る。

寮の住所

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢1-24-9

日本バプテスト神学校 内

電話 045-866-3150 (個人の連絡先にすることはできません)